

## No. (42) 令和3年度 地域と共働した博物館創造活動支援事業成果報告書

事業名称	地域文化イノベーションのための博物館活動形成プログラム		
実行委員会	京都歴史文化施設クラスター実行委員会		
中核館	京都府京都文化博物館		
	住所	〒604-8183 京都市中京区三条高倉京都文化博物館	
	TEL	075-222-0888	FAX 075-222-0889
	ホームページ	<a href="https://www.bunpaku.or.jp/">https://www.bunpaku.or.jp/</a>	
構成団体	京都府京都文化博物館、姉小路界限を考える会、公益財団法人京都古文化保存協会、京都市学校歴史博物館、京都市考古資料館、京都市生涯学習総合センター、京都市歴史資料館、京の三条まちづくり協議会、京都府、一般社団法人千總文化研究所		
事業開始時点の課題分析	COVID-19によって社会全体が停滞し、従来から大切にされてきた文化資産や生活文化に頼るだけでなく、新たな資源やサービスの開発が地域社会から真に求められている。つまり地域文化イノベーションがいま期待されている。これは ICOM 京都大会時に、日本の博物館の現代的課題とされたことにつながる。すなわち、地域社会にとっての、新たな文化資源やサービスの創造に資する場となることが博物館に求められている。		
事業目的	イノベーションの鍵は、異業種・異分野の交流促進と新たな技術の開発・導入、そしてそれらによる人材・組織の育成にあるとされる。その博物館型のモデル構築を本事業は目的とし、京都市内の博物館・資料館、企業、民間団体、地域住民組織、自治体などの多様な集団が共働する組織体を形成し、その結集した力によって、個別の博物館や団体ではアプローチし難かった、従来の顧客を超えた多様な人々・組織をつなぎ、新たな資源やサービスを地域社会に生み出すプログラム・モデルの構築を目指す。		
事業概要	本事業では、新たなストリート・カルチャーの創出を目指す「新たなまちづくり資源創出プロジェクト」、博物館と幼児、企業と高校生、考古学とアート、非公開文化財と市民といった「新たな連携領域創出プロジェクト」、IIIF 式のデジタル・アーカイブ空間やオンライン展示の手法等の開発を目指す「新たな活動空間創出プロジェクト」、多言語化ノウハウの蓄積を目指す「新たな多言語化サービス創出プロジェクト」を行う。		
実施項目 ・ 実施体系	(1) 新たなまちづくり資源創出プロジェクト ①みちとまちワークショップ ②近代建築ウィーク (2) 新たな連携領域創出プロジェクト ①学校資料を活用した幼児等対象ワークショップ・実践講座 ②伝統産業を活かした高等学校との連携活動 ③アートと考古学の連携展示ワークショップ ④京都非公開文化財を活用した市民研修 (3) 新たな活動空間創出プロジェクト ①IIIF 方式による地域資源の公開アーカイブ・ワークショップ ②オンライン展示による地域資源の発信実践 (4) 新たな多言語化サービス創出プロジェクト ①平安京模型を用いた多言語化音声ガイド作成ワークショップ		
実施後の成果・効果等	コロナ禍により本事業も影響を受けたが、予定のプロジェクトは全て実施できた。三密回避等コロナ対策を見越した上で企画した成果といえよう。(1)の事業成果は大きい。開放空間たる「みち」活用の大掛かりな社会実験となり、地域社会と各博物館は実践知の蓄積を得た。参加者も約9割が実験に満足し、次年度への期待が高まった。(2)も①は具体的WS案、②はSTEAM教育への伝統工芸導入、③は芸術家の考古資料活用、④は学生の文化財リテラシー向上等、未開拓の対象との連携創出に成功した以上に、参加者が例えば芸術作品の創作をする等、各分野の資源の具体的活用・価値創造するにも至れた。(3)はデジタル空間で地域資源公開する作業フローを明確化できた点が成果である。参加者の地域住民からの意見も反映した公開ありきでない作業モデルは、今後、他地域での応用検証により、修正・発展できる。(4)は観光専門業者の知見を取り入れることができたが、今後も音声ガイドを運用して効果測定をおこなっていく必要がある。		

## 【事業実績】 地域文化イノベーションのための博物館活動形成プログラムを実施した。

### (1) 新たなまちづくり資源創出プロジェクト

①みちとまちワークショップ:「<みち>の文化の復権と創造と言える一連の取組が、社会実験に結実した。」

○まちカフェ(2021年7/4,7/18,9/25,11/6,12/4,2/27、のべ参加人数 214名)

○三条で遊んでみよし(2021年11/6-7、のべ参加人数 1000名以上)・・・「みち」活用のまちづくり社会実験

②近代建築ウィーク:「京都のまちなかで、近代洋風建築を歴史や景観、まちづくりの資源とする手法が開拓できた。」

○シンポジウム(2021年11/15、配信視聴回数のべ 505回) ○ワークショップ(2021年11/14、のべ参加人数 30名)

○ツアー(2021年11/21,11/23,11/28、のべ参加人数 51名)



■まちカフェでのWS



■路上こどもお絵描き



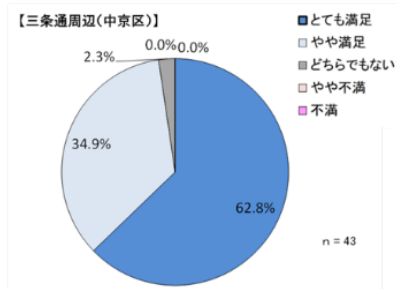
■近代建築ツアー

「伝統ある三条通ではあるが、若い人の意見を取り入れたクリエイティブ&イノベティブな活動を期待する。」「得られた結果から課題点が見えてきたと思うので、次回以降の社会実験に活かしていきたい。」①

「知ることが守ることにつながっていくと思うので、これからも続けていただきたいです。」「建築家の方の案内と、実際にお使いの方の説明を聞いて、建物の魅力がさらにわかりました。」② (アンケート結果より)

■本日の社会実験をどのように感じられましたか。

【三条通周辺(中京区)】



社会実験結果

### (2) 新たな連携領域創出プロジェクト

①学校資料を活用した幼児等対象ワークショップ・実践講座:「学校資料を介した子ども・地域・博物館の「つながり」の方法(具体的ワークショップ案等)を発見・具現化できた。」

○講演会(2021年10/30,11/6,11/23,12/11,2022年1/22,2/23、計141名参加)

○ワークショップ(2021年11/7,12/5,2022年2/19、計26名参加) ○ブックレットの作成



■講演会



■ワークショップ

「学校資料の活用で地域を再発見できる。よい事例を紹介していただいた。」「多面性としての遊びを想定できてよかった。」(アンケート結果より)



②伝統産業を活かした高等学校との連携活動:「知的生産プロセス(知覚)〈思考〉〈実行〉を踏まえた高校生向け授業プログラム開発・試行により、この授業モデルで受講者が伝統技術をより身近に捉えうることを確認できた。」

○教育プログラム開発(2021年9月~2022年1月(計11回) 各回学生24名参加)

○ワークショップ(2022年1/17,1/24、学生24名参加) ○染織技術動画教材の作成



■ワークショップ



■動画

「知識構成型ジグソー法から日本の伝統技術のイノベーションを考える」  
動画他 <https://icac.or.jp/public/2022/01/25/4674/>

伝統的染織技術「手描き友禪」の着物制作における「配色」について「再現できる職人さんの技術はすごいと思いました」「自分で塗ることで色のついた布の綺麗さに気づくことが出来て良かった。」「手描き友禪・手捺染・インクジェットプリントの比較で「人間にしか生み出せない味を出すことや色の微調整、商品に対する思いを認識できた。」 (アンケート結果より)

③アートと考古学の連携展示ワークショップ:『デザイン×考古』の協働により新たな文化資源の創造を実践した。」

○展示ワークショップ(2021年12/14~2022年1/16、アーティスト・学生30名、参加人数:のべ1,487人)



■三条通での展示 WS



■展示品陳列作業



■考古資料館での展示



成果紹介冊子

「全力で制作できた。」「桃山時代の作家に共感を持った。」「桃山陶器の新しい見方につながる発見があった。」「いろいろとやってみようという好奇心が増えた。」「見る側と作る側との交流ができた。」「来場者から正直な感想が聞けて良かった。」「コラボによる相乗効果があった。」  
(参加アーティスト・学生のコメントより)

④京都非公開文化財を活用した市民研修:「京都非公開文化財特別公開の現地で、学生を主対象に、文化財保護や案内、マナー等に関する研修を実施した。」(2022年3/9、のべ参加人数12人)

「参拝中の禁止事項をどのような口調で指摘すればいいのか勉強になった」「お寺の人と思われるため適切な対応が必要であり役に立ちそうだ」「特に敬語の使い方に不安があるので日常生活でも教えられた言葉を使い慣れていきたい」(参加者の声)

### (3) 新たな活動空間創出プロジェクト

①IIIF方式による地域資源の公開アーカイブ・ワークショップ:「地域資源公開の作業フローを明確化できた。」

○ワークショップ(2021年6/18、7/8、9/24、11/18、12/9、2022年1/20、2/25 のべ参加人数40人)

○研修会(2022年2/26、参加人数9人)

②オンライン展示による地域文化資源の発信の実践:「デジタル空間での展示やアーカイブが実践でき、今後360度写真によるアーカイブやオンラインアートプロジェクト等への発展可能性を見出せた。」

○研修会(2022年3/17、参加人数11人) ○オンライン展示作成



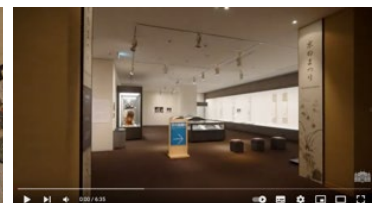
■地域資源アーカイブ・ワークショップで扱った資料

#### ■地域資源公開の作業(抄)

1. 資料の把握
  2. 資料のナンバリング
  3. 調書の書式確定
  4. 整理作業とヒアリング
  5. リスト化
  6. デジタル化
  7. IIIF方式のイメージ作成
- ※住民参加型により、当事者・関係者の気持ちに寄り添う。



■オンライン展示表示画面



■Youtubeを用いたオンライン展示

オンライン展示のURL:

■<https://bonodori2021.bunpaku-online.net/>

■<https://www.youtube.com/watch?v=BJBpMzMahYQ>

### (4) 新たな多言語化サービス創出プロジェクト

①平安京模型を用いた多言語化音声ガイド作成ワークショップ:「文化財の解説板の多言語化に実績のある(株)JTBコミュニケーションデザインを招いたワークショップ等で地域の歴史叙述を多言語化する意義を検討できた。」

○ワークショップ(2021年10/25、10/27、のべ参加人数50名) ○音声ガイド作成



■ワークショップ(講義)



■ワークショップ(実技)



「とても良いと思いました。外国人の方がよくわかると思います。」「システムとして高齢者には少し難しい。」「日本の歴史をストレートに外国の方に理解していただくことは難しいと思っておりましたが、まずは第一歩としては良い取り組みだと思いました。」  
(参加者の声)